

2014年12月18日

第5回 Art & Archaeology フォーラムのお知らせ

これからの社会では、アーティストと考古学者が、社会の中のメディウムになる。少々挑戦的な言葉かもしれませんが、モノとモノ、モノとヒト、ヒトとヒト、そんな間をつなぐ魅力的な力を、アートと考古学はそれぞれ持っていると思います。

では、考古学がアートと出会うと、どのような果実が実るのでしょうか？実は近年、この問いを研究対象とする考古学者とアーティストが増えています。とりわけパブリック・アーケオロジーという分野で、考古学とそれ以外の世界をつなぐ仕組みを探る動きが盛んになっています。

このムーブメントが、世界中に広まりつつあることをご存知でしょうか。実は、4年に一度しか開催されない「考古学のオリンピック」である世界考古学会議（WAC）が、2016年に、ここ京都で開催されます。考古学者をはじめ、観光業者や学校教育関係者、そしてアーティストが世界中から集まります。このWACで、アート（芸術）&アーケオロジー（考古学）が特別なテーマとして扱われるのです。

そこで私たちは、伝統からポップまで多様な芸術に関わる人々に開かれたフォーラムを、考古学とアートが出会う場として始めたいと思います。和気あいあいと話し合える雰囲気をご提供しますので、どうぞ一度覗いてみてください。

記

★事前申込・不要
★参加費・無料

第5回テーマ： アーティストの考古学にふれる2

話題： 「揺らぎまでを伝える・・・極私的小説的考古学のススメ」

話題提供者： 安芸早穂子（考古復元イメージイラストレーター・画家）

もう一つの話： 毎回本物の発掘出土品 触察・解説タイムがあります

※表彰式： WAC第8回大会のロゴデザインコンペ 受賞者への表彰式を行います

日時： 2015年2月1日（日）15:00～17:00
（触察タイム・発表60分程度+意見交換60分程度）

場所： 京都文化博物館 別館2階講義室 <http://www.bunpaku.or.jp>

主催： A&A フォーラム事務局、WAC Japan・WAC-8 京都実行委員会、京都文化博物館
事務局： 松井利夫（京都造形芸術大学・陶芸）、安芸早穂子（復元画家）
中村大（立命館大学・考古）、村野正景（京都文化博物館・考古）

連絡先： 〒604-8183 京都府京都市中京区三条高倉
京都府京都文化博物館 学芸課 村野正景
Tel 075-222-0888（代） Email m-murano@bunpaku.or.jp